

2009年9月9日  
株式会社コンテンツバンク

## 中国市場でコンテンツ権利仲介および流通事業に参入 アニメ・コミックから教育、広告、電子商取引関連まで 幅広いコンテンツの権利取引と流通事業を展開

株式会社コンテンツバンク(本社:東京都新宿区・社長:峯岸俊介/以下、コンテンツバンク)は、中国杭州市に中国現地企業である真妙科技有限公司(本社:中国杭州市、社長:凌晨)と合弁で版銀科技有限公司(コンテンツバンク・チャイナ/以下、版銀科技)を設立し、中国市場において、中国現地企業への日本のコンテンツの配給、ならびに日本のコンテンツを利用した事業を構築し、中国現地企業と共同で実施します。また、中国企業に権利があるコンテンツを日本市場に展開する事業も実施します。

中国では、経済水準の高まりに同期して、テレビやブロードバンド、さらには携帯電話など、様々なメディアに対する消費者の接触が増加してきています。このため、消費者向けのコンテンツの需要が急増しており、国内生産の増強に加え、海外からの輸入商談が増加の様相を見せています。日本のコンテンツは、その品質や人気のみならず、コンテンツを利用したビジネスモデルなども大きな価値を認められており、コンテンツを中核にした中国での事業機会は、まさに黎明期にあると申せましょう。

コンテンツを中核としたビジネスを行う場合には、利用権や配給権などの権利(著作権)の設定と引渡しが必要です。これまでの海外におけるコンテンツの取引では、現地の商習慣やビジネスモデルに配慮した著作権取引やコンテンツ流通(商社的機能)が十分機能していませんでした。

コンテンツバンクは、2001年に創業し、日本国内で8年間、コンテンツホルダーなどの権利者からコンテンツの権利を預かり、著作権取引およびコンテンツ流通事業を実施してきました。海外では、韓国企業との事業実績を有しています。版銀科技の設立は、メディアに対する価値が高まった中国に対して、日本での経験と実績を基盤にしなが、中国市場に合わせた事業を構築することを目的とします。

中国での事業展開を行うにあたって、版銀科技は、国際著作権交易中心(本社:中国北京市/以下、著作権中心)と連携します。著作権中心は、コンテンツの権利取引事業を行っている中国企業で、2009年5月に設立されました。版銀科技は、コンテンツ流通事業に注力するとともに、コンテンツバンクと連携し、日本に著作権があるコンテンツの仕入れや中国での商取引、ならびにコンテンツビジネスモデルの構築を行います。一方、著作権中心は、版銀科技が実施する事業の中で、中国での著作権取引過程を引き受け、権利取引の合理性と透明性を担保することによって、版銀科技のコンテンツ流通事業の基盤を提供することになります。

版銀科技は、今後は複数の都市に拠点を構えることも視野に入れ、コンテンツバンクと連携を密にしなが、2010年に売上5000万円、2013年に売上5億円を目指します。

【杭州版銀科技有限公司】

■英語名: Contents Bank China (略称:CBC)

■資本金: 1000 万円

■株主構成: 真妙科技有限公司 60%、  
株式会社コンテンツバンク 30%  
その他 10%

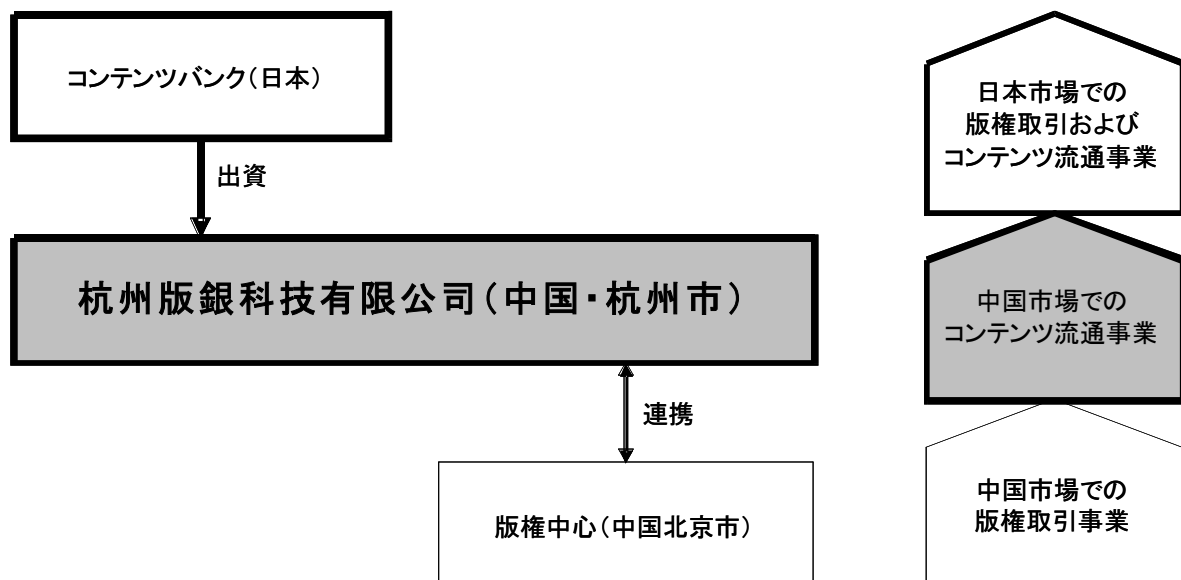
■事業内容:

- (1) 海外(日本を含む)著作権取引の代理、および権利の中国国内販売
- (2) 海外(日本を含む)コンテンツの仕入れ、および中国国内販売
- (3) コンテンツを利用したビジネスモデルの立案、および実行支援
- (4) 中国著作権取引の代理、および権利の日本国内販売
- (5) 上記付随のコンテンツサービス業務

■登録地: 浙江省・杭州市

■董事長: 凌晨(真妙科技有限公司 董事長)

■董事: 峯岸俊介((株)コンテンツバンク 代表取締役社長)



【ニュースリリースのお問い合わせ先】 久保田、佐久間

株式会社コンテンツバンク Tel:03- 5367-0290 e-mail:[kouhou@contentsbank.co.jp](mailto:kouhou@contentsbank.co.jp)

〒160-0004 東京都新宿区四谷 3-13-11 栄ビル 8 階

以上